

三保半島における道路景観の将来像

1.三保駒越線を例として

三保駒越線において、景観形成の取組みを進めていくとどのように変わるのかをみます。(一例です)

(1)三保駒越線の現状

道路幅員は約 14m。片側1車線の車道、両側に歩道があります。道路正面(北方向)には富士山を眺めることができますが、電柱や道路横断架空線、沿道の屋外広告物等が眺望を遮っている箇所もあります。



現在

STEP 1
道路拡幅、電線類地中化等を
公共で整備。

(2)三保駒越線の将来

道路拡幅と無電柱化のみを行った場合...

現在、計画されている道路拡幅と無電柱化のみを実施した場合のイメージです。



将来

STEP 2-A
沿道(民地)では何の規制もしない。



将来

B.今後、官民協働による景観形成を実施していく場合...

道路拡幅と無電柱化に合わせ、沿道の建築物と屋外広告物に対して、景観形成に対する何らかのルールの設定や具体的な取組みを実施していく場合のイメージです。

STEP 2-B
沿道(民地)でも景観形成に取り組む。



将来